

世界ふるさと祭り 『世界にいかせ和の文化』

心のかけ橋 「栄西さんがまいた種」



と き:平成22年10月31日
と ころ:三木記念ホール

佐賀県吉野ヶ里町
地域おこしグループ「さざんか塾」

塾長 多良正裕

〔 目 次 〕

- 1、佐賀県吉野ヶ里町
- 2、地域おこしグループ「さざんか塾」

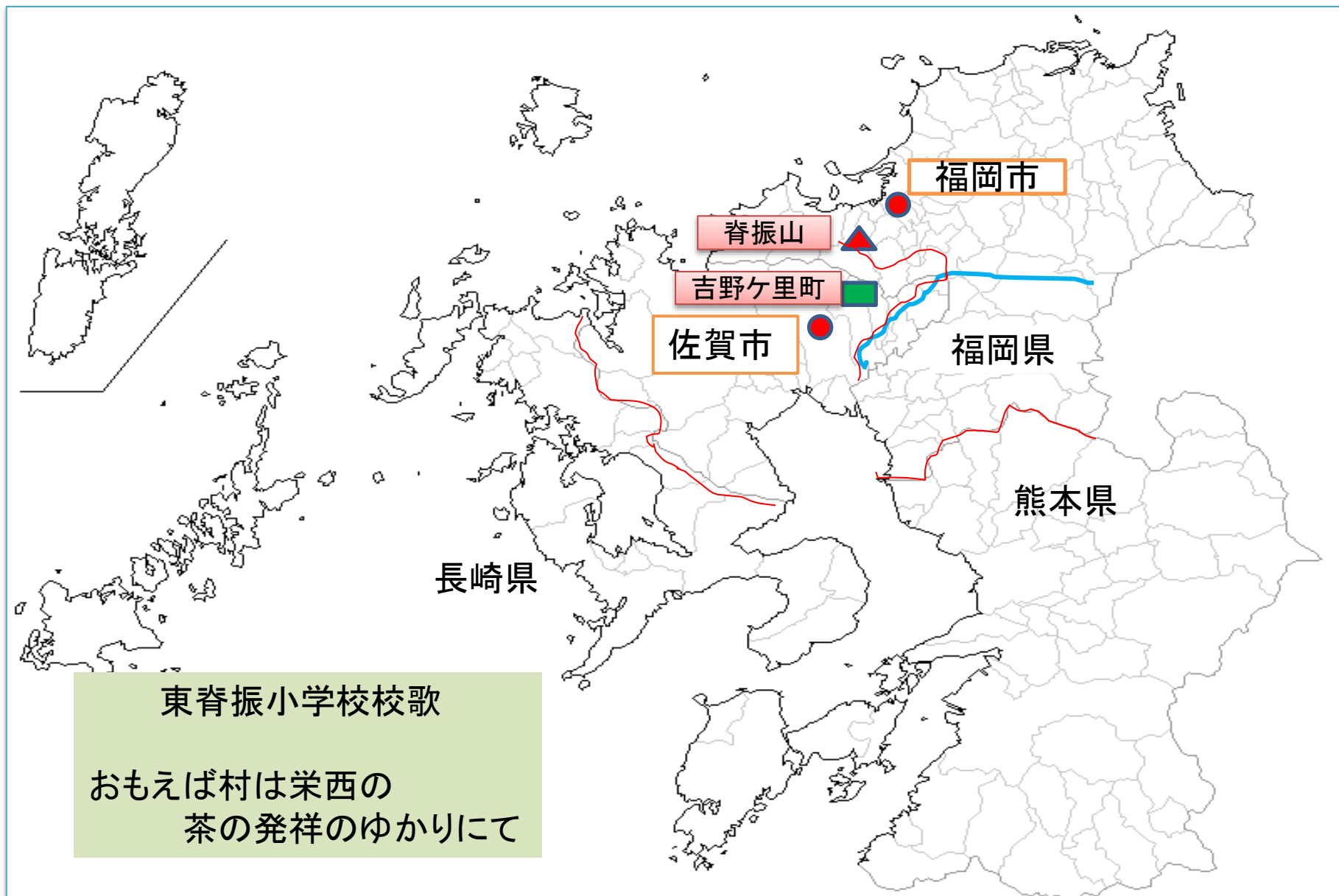
- 3、茶について
- 4、中国国内や日本への茶の伝播

- 5、栄西禅師の活動と時代背景
- 6、茶栽培発祥の地 脊振山靈仙寺
- 7、栄西禅師ゆかりの寺

- 8、茶に関係した人々
- 9、茶に含まれる成分

- 10、茶のいろいろ
- 11、まとめ 栄西さんが蒔かれた種から

1 佐賀県吉野ヶ里町



2-① 地域おこしグループ さざんか塾（吉野ヶ里町）

1、結 成：「住みやすい村づくりを自ら行いませんか」

呼びかけに 12名の男女が集まる（平成5年）

2、活動目標：

- ① 地元を知ろう（歴史・文化を学び、地元の資源活用）
- ② 気持ちの良い環境づくり（自然保護、生活環境改善）
- ③ 町の夢(ビジョン)づくり（10年・30年後のあり方を常に考える）

3、基本理念

いろいろ考えるより 先ずやってみよう

「本気を出せば何でもやれる」

- ① 目先にとらわれず先を見据える
- ② 地球規模で考え、行動は足元から
- ③ 身近な所に宝の山がある
- ④ 宝の山は遊び心の我々の眼で発見できる
- ⑤ 地域に根ざし子供達のために夢ある想像力豊かなまちづくりに取り組む
- ⑥ 無理をしないでできる時にできることを

2-② さざんか塾 活動紹介

- 1、国道沿いの花植え、草刈
- 2、イベントへの参加(聖茶祭り・炎まつり)
- 3、映画上映、講演会開催
- 4、**バンブーオーケストラ(竹楽器楽団)支援**
- 5、イベント「竹ものがたり」開催
(里山保全と竹による町おこし)



吉野ヶ里バンブーオーケストラ

- 6、美しい里山づくり (園児、子供クラブとコスモス・菜の花栽培)
- 7、食と農の取組 (里山にコスモス・菜の花 と 大豆・ソバの栽培、味噌・豆腐作り)
- 8、**日本茶栽培発祥の地保存とPR (脊振山茶談議)**
- 9、小川内桜の会に協力 (ダム計画地周辺景観づくり)
- 10、県内外の団体との交流、ネットワークづくり

※ 塾生の話合いで、今後も色々なものに取り組みます

3 照葉樹林帯と茶

照葉樹

ツバキ・カシ・
シイ・クス など

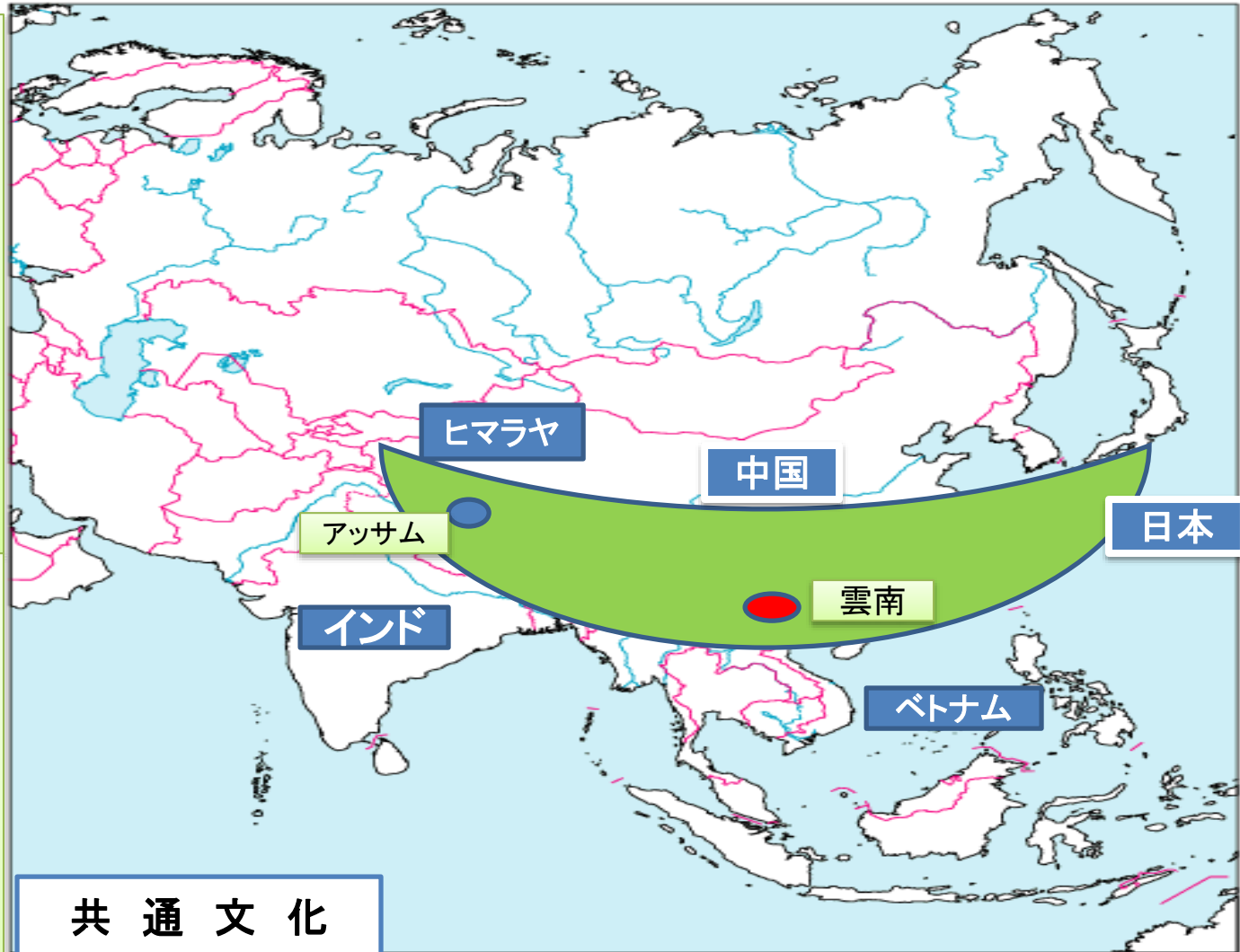
葉の表面に 光沢の
ある 常緑の広葉樹

茶の発祥地

中国雲南省最南端
(タイ・ベトナム北部)

標高

約1000m～1300m
樹齢約800年、高6m
の茶の木が多く残る



共通文化

【食文化】 ソバ・大豆・里芋・納豆・コンニャク・茶

【生活文化】 山の神信仰・月見と芋祭り・鵜飼い漁法・日本神話共通

4 茶の仲間

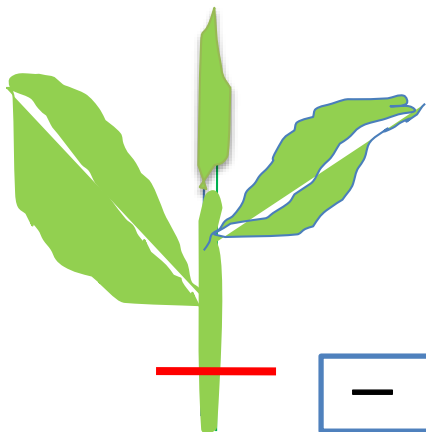
ツバキ科 (カメリア科)

① ツバキ属(サザンカ) ② ナツツバキ属 ③ チャ属

チャ(茶) … ① 中国種 (底木・小葉) 温帯地方 (緑茶)
② アッサム種 (高木・大葉) 亜熱帯・熱帯 (ウーロン茶・紅茶)

茶の育つ条件

- ・ 平均気温13度以上
- ・ 降雨量年間約1500mm
- ・ 霜が無く、霧の多い涼しい環境を好む



一 芯 二 葉



5 サザンカ(山茶花) と チャ(茶)



サザンカ自製北限地帯 (国の天然記念物)
道の駅西に 2, 208本の サザンカの木



日本茶栽培発祥の地一帯の茶の木
[花言葉] 山茶花 ひたむきな愛 ・ 茶 純愛

6 日本茶の産地と北限

茶生産順位

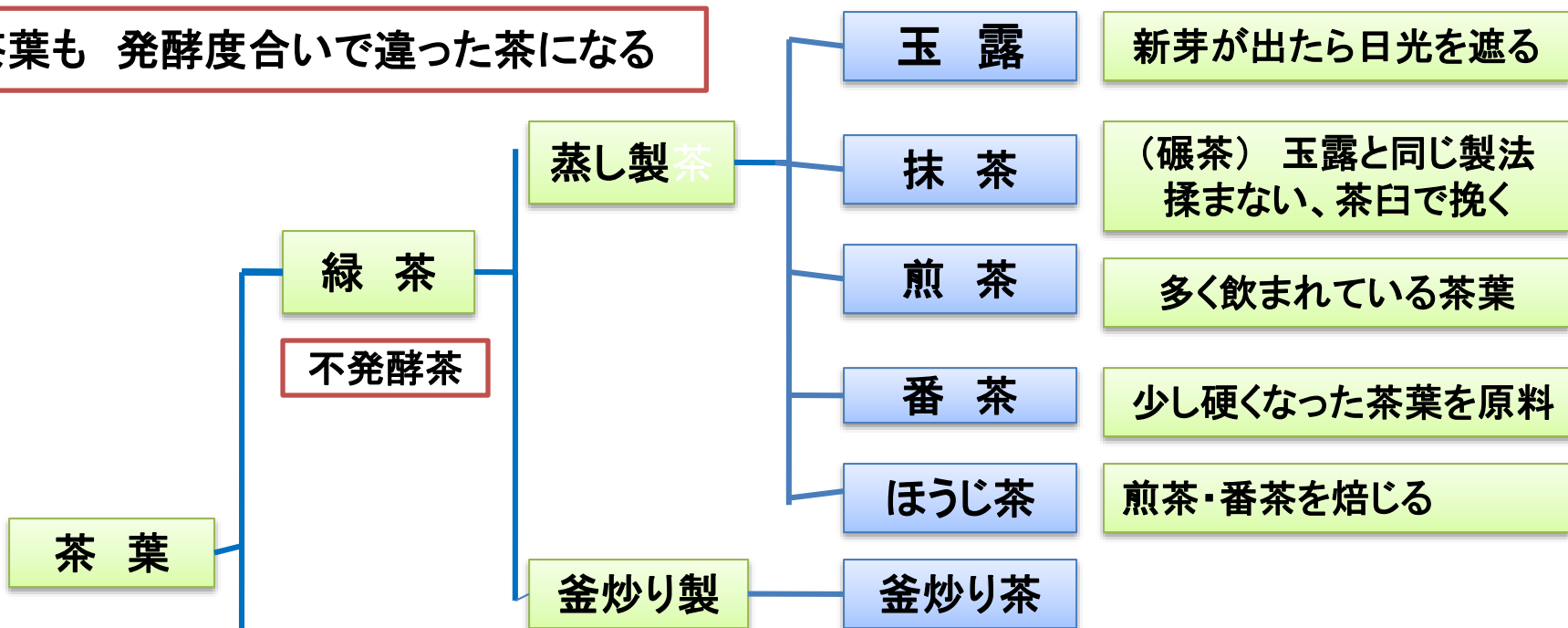
(平成15年)

- 1位 静岡県
- 2位 鹿児島県
- 3位 三重県
- 4位 宮崎県
- 5位 京都府
- 6位 奈良県
- 7位 福岡県
- 8位 佐賀県
- 9位 熊本県
- 10位 長崎県



7 茶の種類

茶葉も 発酵度合いで違った茶になる



8 中国での茶の伝播



茶は「山地民族」より、稲作文化を持つ「漢民族」に伝わり 中国全土に広まる
日本へは仏教とともに伝えられた。 茶の呼称も陸路と海路で違い伝わる

9 日本への茶の伝来

奈良時代

(710—793)

平安時代

(794—1191)

894 遣唐使廃止

鎌倉時代

(1192—1333)

南北朝時代

(1333-1338)

室町時代

(1338—1573)

775年 中国「唐」代 中国の茶祖「陸羽」が茶経を著わす。

最澄 (804—805)に入唐 帰朝後比叡山で天台宗を開く
滋賀県大津市で茶を栽培

空海 (804—806)に入唐 [弘法大師]高野山で真言宗を開く
茶を持ち帰る

栄西 (1187—1191)入宋 臨済宗開祖 脊振山靈仙寺
石上坊で茶の栽培を始める

1195年 博多に「聖福寺」建立 脊振山の茶を分播

1207年 京都「明恵上人」に茶種を渡す
(梶ノ尾で栽培、宇治茶の始まり)

八女茶 1406年 明に留学した「周瑞禅師」茶の種子を持ち
帰り庄屋に伝授 八女市黒木の靈巖寺

嬉野茶 1506年 明の陶工師「紅令民」が南京釜持参し釜炒り
製法を伝える。その後、佐賀県白石より
移住した「吉村新兵衛」が確立、発展させる

10 栄西禅師（日本臨濟禅の開祖）

1141年 備中(岡山県)生れ、13歳で比叡山に登り天台密教の修行

1168年 28歳 中国「南宋」に博多港より渡り、約6月間修行し帰朝

1187年 47歳 天竺(インド)を目指すが断念、中国天台山万年寺、天童山景德寺で4年間修業 当時から、上海・蘇州・杭州は、**中国の緑茶の産地**

1191年 51歳 **臨濟禅を極め帰国** 平戸に到着、その後博多を目指す
脊振山靈仙寺石上坊の境内に「**茶種**」を蒔き、**茶の栽培**を始める
(蒸し製法抹茶を伝える)

1192年 52歳 久留米市に「**千光寺**」**建立**、我が国最古の禅寺のひとつ

1195年 55歳 源頼朝に請願し、**博多に「聖福寺」建立**、境内に脊振山の茶を分播
比叡山旧仏教の弾圧を受け「**興禅護国論**」を著わし反論

1199年 59歳 2代将軍「源頼家」と「北条政子」の帰依を受け、**鎌倉に「寿福寺」建立**

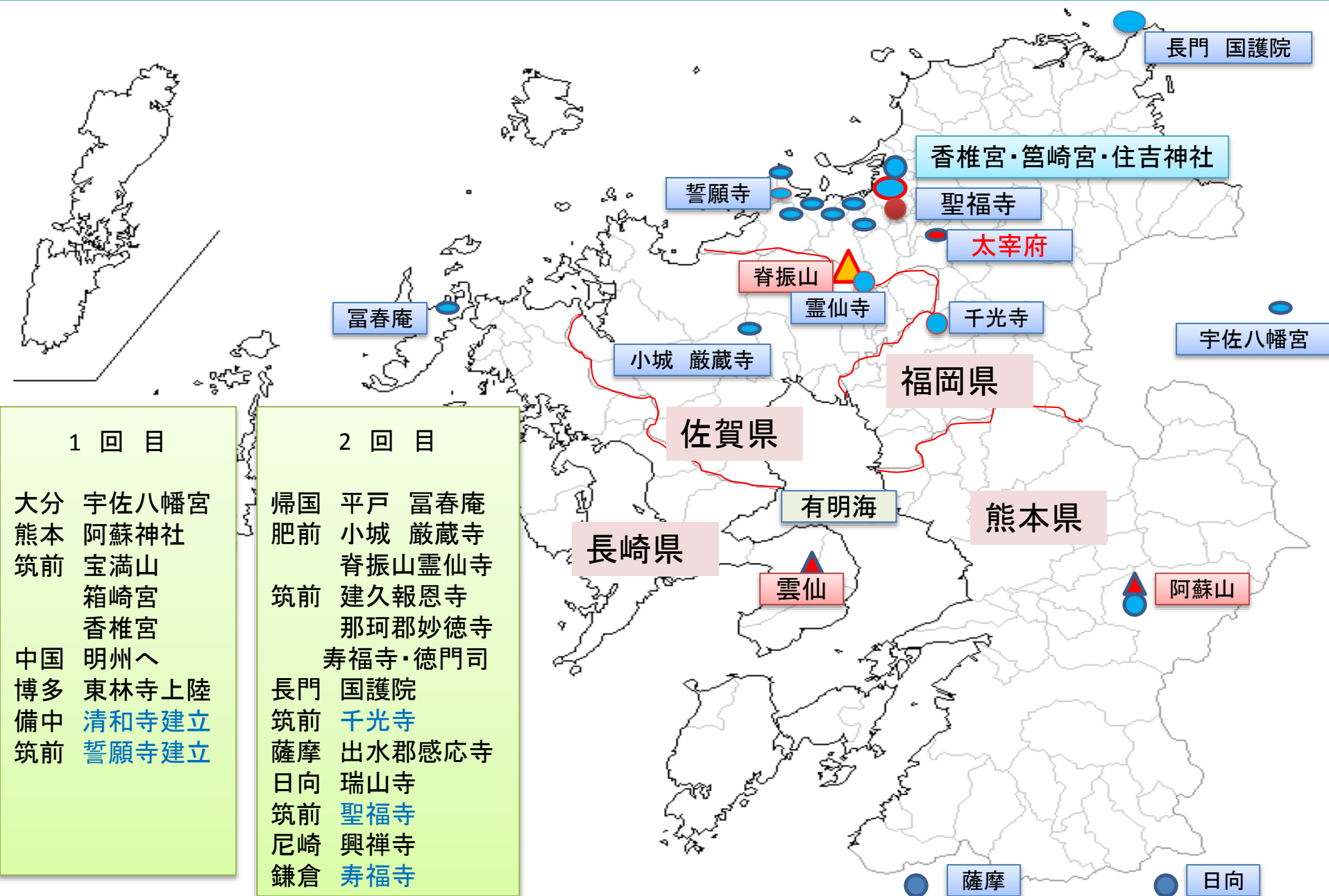
1202年 61歳 **京都に「建仁寺」建立** 臨在禅宗の京都進出

1212年 71歳 茶書「**喫茶養生記**」を著わす。茶と桑の効能 上下2巻構成

1214年 73歳 3代将軍「源実朝」に茶書「**喫茶養生記**」を献上

1215年 74歳 逝去

11 栄西禅師 北部九州での活動



1 回目

大分 宇佐八幡宮
 熊本 阿蘇神社
 筑前 宝満山
 箱崎宮
 香椎宮
 中国 明州へ
 博多 東林寺上陸
 備前 清和寺建立
 筑前 誓願寺建立

2 回目

帰国 平戸 富春庵
 肥前 小城 巖蔵寺
 脊振山 靈仙寺
 筑前 建久報恩寺
 那珂郡 妙徳寺
 寿福寺・徳門司
 長門 国護院
 筑前 千光寺
 薩摩 出水郡 感応寺
 日向 瑞山寺
 筑前 聖福寺
 尼崎 興禅寺
 鎌倉 寿福寺

12 平安・鎌倉期の脊振山

- 709 脊振山に菅朗寺建立
後の靈仙寺
- 710 (奈良)元明天皇
- 794 (平安)桓武天皇
- 805 最澄(天台宗)
- 806 空海(真言宗)
- 815 僧永忠 嵯峨天皇行幸茶献上

- 836 神埼荘天皇勅旨田
- 894 遣唐使廃止

- 1133 平忠盛 大宰府に下文
- 1141 栄西禅師誕生

- 1167 平清盛太政大臣
- 1168 栄西 南宋へ(27才)
- 1185 壇ノ浦で平家滅亡
- 1187~1191 栄西南宋へ(47才)
脊振山で茶栽培
- 1192 (鎌倉)源頼朝征夷大將軍
- 1195 栄西 博多に聖福寺建立
- 1202 栄西 京都に建仁寺建立
- 1215 栄西逝去(74才)

- 1274 文永の役(蒙古襲来)
- 1281 弘安の役(蒙古襲来)
- 1333 鎌倉幕府滅亡



神埼の荘園…平の忠盛(清盛の父) 神埼の荘を手中に収める、目的は宋との貿易
田の神「櫛田宮」を博多に分社し、神埼の荘の一部とし貿易を行う

13 脊振山 靈仙寺 (りょうせんじ)



14 靈仙寺乙護法堂・茶畑・記念碑



← 現存する「乙護法堂」
鍋島勝茂により1600年頃10坊が再建



↑ 「日本最初之茶樹栽培地」記念碑

← 現在まで守られてきた約20アールの茶畑、道の駅・雲仙岳が望める

15 脊振山 靈仙寺(りょうせんじ) (中宮)



水上坊跡の霊水石
梵字「バン」大日如来を意味する

「日本最初之茶樹栽培地」記念碑と「乙護法堂」

鍋島勝茂により、慶長年間(1596～1616)に戦火で焼失した10坊を20年かけて再建 明治の廃仏毀釈まで続く、現在は乙護法堂のみが残る

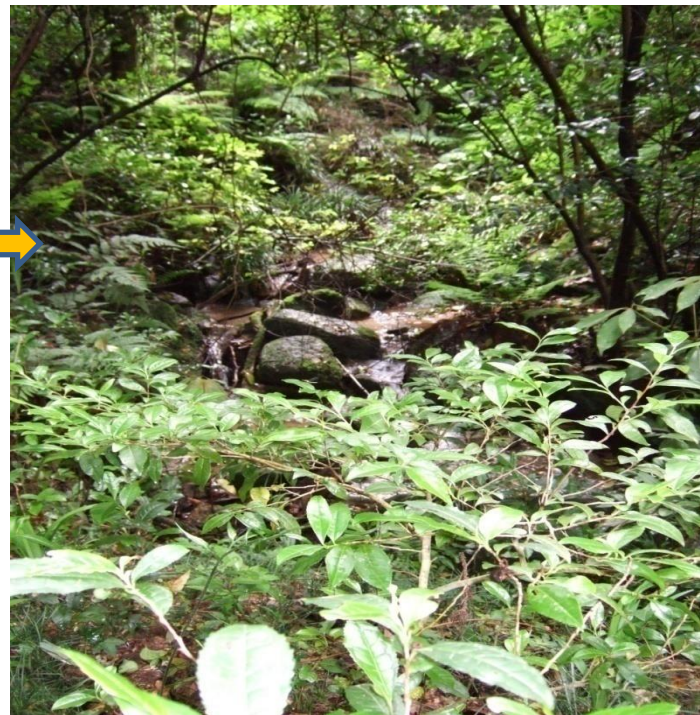
喫茶養生記 (1212)

茶は養生の仙薬なり延命の妙術なり、山野之を生ずればその地神霊なり。人倫之を採ればその人長命なり。天竺、唐土、同じく之を貴重

16 石上坊跡

脊振山霊仙寺境内
西の谷の「石上坊」

1191年(819年前)
「栄西禅師」により
茶の種が蒔かれた、
これが日本茶栽培
発祥とされる。



石上坊横の谷川



多くの茶関係者が訪問

17 靈仙寺(りょうせんじ)からの景観



靈仙寺 乙護法堂前より南方を望む 筑後川、有明海、雲仙岳が望める

18 下宮 積水寺(修学院)



19 靈仙寺の茶の碑

碑文
茶道源遠友誼流長



日中友好の碑



靈仙寺跡 筑前・肥前街道

茶畑

国道385号

駐車場



静岡県 菊川町の碑

【日中友好の碑】 昭和63年中国の茶祖「陸羽」研究会が来日、靈仙寺を視察。記念の書を石碑に刻み建立。平成元年に中国総領事館副領事夫妻を迎え除幕式を開催。「茶道の源は遠いが、茶道を通じて日中両国の友好を末永く続けたい」の思い

20 脊振千坊 聖茶祭り



霊仙寺 乙護法堂で栄西供養

韓国 河東(ハドン)郡花開面(ファゲ)中学校
の生徒による茶の作法紹介

21 龍護山 千光寺 (せんこうじ)



脊振山の茶を聖福寺に移植と刻まれている石碑

福岡県久留米市山本町



千光法師 栄西禅師



鉄鉢



印箱



四寺碗



払子

22 聖福寺 (しょうふくじ) 福岡市博多区



1195年 源頼朝に請願し博多に「聖福寺」
を建立
比叡山の弾圧に対し「興禅護国論」で反論

栄西禅師が日本で最初に「茶」を栽培した、
靈仙寺石上坊跡に 自生する茶の木を800
年後再度移植 (2008・3・15)

23 茶に関係した人々 (1)

明恵上人

(みょうえ)

奈良仏教の中心的存在 **京都に「高山寺」建立**
栄西禅師より30歳ほど若い、仏教や禅について影響を受ける
栄西禅師より**「茶の種」を譲り受け**、栽培方法や効能などを伝授される

※ 茶は栄西禅師により中国から招来、明恵上人により日本国内に広まる

隠元禅師

(いんげん)

江戸時代前期 中国「明」の時代に長崎の「興福寺」要請で渡来
1660年 宇治に**黄檗山「万福寺」建立** 黄檗宗開創

※ 釜炒り製法と煎茶の喫茶方法伝える (中国華南地方の生活文化も伝える)

永谷宗圓

(ながたにそうえん)

中国「明」の製茶法を日本の製法に取り入れ**「青製煎茶法」を開発**
抹茶中心の京都では売れないと、江戸に山本園を訪ね販売

千利休

(せんのりきゅう)

1522年大阪堺に生まれる (堺は貿易で賑わう国際都市で経済文化の中心)
16歳で茶道に入る **「侘び茶」の祖「村田珠光」の流れをくむ「武野紹鷗」の門を叩く**
「茶禅一味」で表される、茶の中に精神的なものを求める。禅と茶が一体化していく

※ 日本人の心の糧となる、茶を精神文化「茶の文化」として確立

23 茶に関係した人々 (2)

高遊外売茶翁 (こうゆうがいばいさおう) (1675~1763)

現佐賀市蓮池に生まれ、12歳で出家 50代半ば過ぎに上京
臨濟禪・曹洞禪を学び「黄檗宗の僧」として日本各地で修業
61歳で「売茶翁」を名乗る 永谷宗圓と深い交友関係であった
京都 鴨川のほとりで茶店「通仙亭」を開き「一服一銭」の茶を売る

※ 生涯悠々自適、清貧に甘んじ「茶禪一味」を貫き通し、煎茶を風流な
「趣味芸道」に高めた 煎茶の祖として崇められている

吉村新兵衛 (よしむらしんべい) (1603~1657)

現白石町に生まれる
現嬉野町の皿屋谷に移住し、茶を栽培し販路も確立
嬉野の釜炒り茶を確立

大浦 慶 (おおうらけい) (1828~1884)

幕末の長崎で生まれる、油商に見切りをつけ茶の輸出を計画
1853年に嬉野茶を外国に紹介、1859年イギリスに九州の釜炒茶を輸出
お慶の屋敷には坂本竜馬をはじめ明治維新の元勳たちが出入りしていた
明治維新とともに茶貿易の中心が長崎から横浜へ移ると衰退していく

24 茶に含まれる主な成分

カテキン

茶の「渋み」「苦味」を作り出している成分 茶の成分の10~18%を占める
強い殺菌効果がある 発ガンの発生率・増殖抑制

カフェイン

お茶の「苦味」を作り出している成分
中枢神経興奮・覚せい効果(酔いさまし)・眠気防止・利尿作用・強心作用・疲労回復

テアニン

お茶の「甘味」「旨味」を作り出している成分で、茶の葉にだけ存在する
カフェインの作用を穏やかにし、脳の神経細胞に作用しリラックスさせる癒し効果

ビタミン

- | | | |
|---|-------|-------------------------------|
| C | ビタミンC | 風邪の予防、美肌効果 熱に強い性質 抗酸化作用 |
| A | ビタミンA | (葉) 茶に含まれるカロテン(体内でビタミンAと同じ働き) |
| E | ビタミンE | (葉) 老化防止に効果 |

他には

- ・ 食物繊維 …(葉) 大腸がん予防に効果
- ・ フッ素 …(葉) 歯の表面を強くし、抵抗力をつける成分
- ・ ミネラル … 血液のアルカリ性を保つ (カルシウム・リン・マグネシウム・鉄)
- ・ サポニン … 鎮静、鎮痛、インシュリン作用、血栓予防作用

25 茶いろいろ

一期一会

茶道での接待の大切さや もてなしの心を表す

結納茶

結納の儀式に茶が使われる 九州地方に主に見られる

ことわざ

日常茶飯事、お茶の子さいさい、お茶を濁す など
日常生活に茶が大きくかかわっていた証し

水文化

日本の文化は、木の文化 米文化 茶の文化
共通しているのは「水」

26 栄西禅師と茶

栄西禅師にとって、茶は何であったのか

[禅と茶] 平安から鎌倉時代への激動の時代に、新しい仏教を追求
新しい仏教、禅宗との出会いと茶
原点に戻る・真の自分を見つめる
禅も茶も、心の清さ 邪気を払う 気高さ

[喫茶養生記](1212)

茶は養生の仙薬なり延命の妙術なり、
山野之を生ずればその地神霊なり。
人倫之を採ればその人長命なり。
天竺、唐土、同じく之を貴重



27 栄西さんがまかれた種

栄西禅師が日本に伝えた茶

茶は、単なる飲み物でなく、独自の文化の域まで高められた
茶道として、武道と同様に日本人の精神文化を確立
現在の、日本人の風習や生活文化を作り上げてきた

日本や世界の歴史に大きく係わる茶

明治維新の元勳たちを支援した「大浦慶」イギリスに茶を紹介
ヨーロッパで飲茶が流行る 緑茶から紅茶へ
アメリカ独立戦争の発端となった、ボストン・ティ・パーティー事件に係わる
中国の貿易品の茶・絹、後のアヘン戦争へ発展

我々の役割

栄西禅師の偉業を讃えると共に、今後も大切に守り伝えていく

おわり